

ヴァンダナ・シヴァさん



来日したインドの
環境科学者

反グローバリズムの論客。水や食物、種など生命の循環を女性になぞらえ、それを科学や暴力によって支配しようとする

1952年生まれ。カナダで博士号（量子力学）取得。著書に「緑の革命とその暴力」「バイオパイラシー」など。

生命に対する海賊行為

家父長的な暴力と闘う

「米国のイラク攻撃は、ドメスティック・バイオレンスと同じ構造を持っています。他者が自由に生きることを恐れ、絶対的な力を見せつけようとするシグナルです」

動きに「家父長制」という言葉を当て対抗する。「この言葉には二つの顔があります。一つは軍隊による戦争、もう一つは多国籍企業によるグローバリゼーション」

「この言葉には二つの顔があります。一つは軍隊による戦争、もう一つは多国籍企業の知的所有権で囲い込まれたり、



水や農薬を大量に使う遺伝子組み換え作物の栽培のために借金苦で自殺する農民を見てきた。これらを「生命に対する海賊行為」として、イラク攻

撃と同様の脅威と語る。若い日、インド初の核燃料施設の研修生だった。その喜びを姉に語ると、医師をしている姉は、健康への影響を心配し

た。愕然とした。核物理学の知識には自信があったが、それが生物に及ぼす影響は知らなかった。

「科学の暴力は、行為と結果が分断されている

ことから起こる」。科学技術が生態系に及ぼす影響を包括的に考えずにはいられなくなった。82年に自身の研究所を設立し、91年には種子バンクを設立した。近年は「種の学校」を開き、世界各地の市民と対話している。

「地球と人々を破壊するシステムから、自分たちを解放したい。そして、持続可能な未来を作りたい」

文・中島みゆき
写真・根岸基弘